

# ふるさとのみなさんへ 東都高原富士見会だより

## 日々雑感

喜寿を迎える老齢となり富士見を離れ60年が過ぎるこの頃ですが、故郷で過ごした年数を遥かに超える年月を全国の各地で暮らしてきましたが、古里は遠くにありて思うものと言われますが殊に富士見へ行く機会が減ったこの頃は郷愁を強く感じます。毎月送られてくる「広報ふじみ」を見る毎に感じられ、特に昨年は『富士見の景観』に先達区からの釜無の雪景色や池袋の氏神様の写真と共に、最近はあまり利用しない信濃境の駅舎を見るにつけ境村出身者としては昔を思い出され。私達が通学した昭和の30年初めは今の様なツツジも無く貨物の引込み線に沿って線路を渡り、下りホームの鉄板を上げて改札口を出て帰り、また朝は八幡森の上から小淵沢を出た列車の煙が田端のトンネルに消えると坂を一気に駆け下りて列車に飛び乗って通学した頃がつい昨日のように思い浮かびます。



小林 七郎  
千葉市在住  
(高森出身)

昨年の「富士見会の親睦の集い」で加々見議長はじめ来賓の挨拶の中で地方衰退が言われ、人口の減少による過疎化と空き家問題をはじめ富士見町の進むべき方向性を示す基本構想をまとめ町民の声を聞きながら全力で取り組んで居るとのお話でした。

私の住む千葉市でも人口減少と戸建て住宅の空き家問題が深刻な過疎化問題となりつつあります。皆様ご存じの方も多いと思いますが昭和40年初めから海岸を埋め立てて京葉コンビナートの建設に続き、潮干狩りと海苔の養殖の稲毛海岸から幕張海岸へと埋め立てて宅地を造成した一帯が私の住む千葉市美浜区です。昭和49年～50年に入居が始まり約40年が過ぎた新興住宅地にも過疎化の波は迫っている。海拔3mの起伏の無い土地に高層マンション・中層の公団住宅・公営住宅とその間に戸建住宅と計画的に建設され、戸建住宅に隣接して個人経営のショッピングゾーンと医療区・学校と理想的な住宅地が入居数年で学校には生徒が溢れ校庭はプレハブ教室で埋まり、その後約10年を過ぎる頃は新入生が激減して遂に小・中学校の統合がようやく終わった状態です。医療区の医院も後継者不足と人口減少に伴う患者の減少で撤退が進み、商店も住民の減少で廃業が多く買い物難民が増加しています。また、千葉県の企業庁が造成整備を行って公益施設用地を提供しました。千葉市は学校用地をはじめ公共施設用地を企業庁に借用して施設を建設してきたが、今期末には県企業庁は解散となり、負債返済のためにこれらの学校跡地等の公益施設の土地は業者に売却され高層マンションの建設が進んでいます。また一方では大型商業施設が開業したことにより個人商店をはじめ中小のスーパーも撤退が見られ、下駄履きで買い物ができた商店は跡形も無い状態に陥っています。

高層マンションの建設で人口増加が見込まれても千葉市の人口は現在の96万人が約40年後の2060年には85万人と見込まれ、人口の減少は避けられないと推測されています。

入居後40年を経過した今は住民の高齢化で殆どが年金生活者となり、ここで育った子供達は親もとを離れて家庭を持ち、親との同居する子供が居ないため住む人のない空き家が増加しています。退職後の男性は働きづくめで隣近所との交流少なく町内活動に溶け込めない状態が殆どで、町内の活性化の妨げとなりつつあります。

東都高原富士見会の会員も高齢化が進み富士見町の行事に参加が困難になりつつありますが、故郷富士見町との絆を末永く続けていけることを望みます。

最後に今年は御柱祭りの年になりますが、次の御柱祭りには体力的に無理と思われるので是非最後の御柱祭りを見に行きたいと思っています。

